

指導教員名	山川拓也
-------	------

活動区分	地域活性化型	連携先	企業

# ～ (株)宿場JAPANとの協力に基づく尼崎・杭瀬中市場における観光施設計画の学生提案 ～

## 活動の様子



## 企画・活動概要

多文化共生の基盤づくりをテーマに「地域融合型」宿泊施設の企画・運営・開発コンサル等を生業とする(株)宿場JAPANの協力のもと、同社が将来的に本格進出を考えている尼崎・杭瀬中市場界隈の地域生活資源を活用した観光施設計画を検討し、同社ならびに同地域の関係者に対して提案するものである。



## 経緯・背景・目的

この活動は「観光施設計画論」の授業の一環としておこなわれたものであり、昨年度も(株)宿場JAPANとの協力関係のもと、観光施設としてのゲストハウスの計画などに取り組んできた。今年度は昨年度の取り組みを発展させ、一施設としてのゲストハウスの計画に留まらない地域の総合的な観光施設計画について学ぶための機会とした。



## 取り組む課題

Community Based Tourism(CBT:地域主体・地域融合による観光)の観点から、地域の日常生活区域内にある既存生活施設(=非観光施設)が潜在的に有している観光施設としての利用可能性を認識し、非観光地であるローカルな日常生活区域内での持続可能性に配慮した観光マーケティング戦略としての「新しいタイプの観光施設の創造的計画」と「新しいタイプの観光施設を媒介とした観光としての人的交流の創出」に資する提案をおこなう。



## 本学(学生)の役割

地元に基づいて活動されている方による特別講義や現地フィールドワークおよび議論・発表といったアクティブ・ラーニング(能動的学修)を通して、提示された課題を学生らしい視点・マーケティング手法を活用して解決・提案する。



## 活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

13人の履修者を4グループに分けて実施した2回のフィールドワークと議論により得られた内容をもとにグループ毎で提案をまとめ、(株)宿場JAPANの今津歩氏と地域関係者への提案プレゼンをおこなった。中には見立ての甘さから厳しい指摘を受けたグループもあったが、今後の地域活動で参考にできる点も多くあるという全体評価をいただいた。今回の教育成果としては、観光の実体・実相をステレオタイプのイメージ化されたレンズで認識するのではなくこれまでと異なるレンズで視野広く捉えるといった、クリティカル・シンキングの基礎を学生は身に付けることができたのではないかと考えている。

フィールドワークをして「ソフトウェア的」だと感じた事象について

- 店舗で客を誘入し、購入した品とを贈答することで親しい関係ができる。
- 商店街で「お茶」を飲むことで自然と会話になり、商店街の賑わいを体感することができた。
- ガイドさんの情報を頼りて案内してもらったことなど。
- 商店街にある飲食店を訪問して食事やパンを頂くようにしていろいろな人の交流の場があった。
- 商店街で写真を撮るなど。
- 商店街が賑わっていることにより商店街で購入したものを食べたりできるなど。
- 様々な店舗によって自然と会話ができたりも実際に体験できる。
- 商店街の人々が声をかけてくれたりすることでフィールドワークの意義がより豊かになった。

## 指導教員および関係者の紹介

### <指導教員>



人間社会学部  
観光学科  
准教授  
山川拓也(ヤマカワタカヤ)

<専門・担当科目等>  
観光経済学、観光消費論、観光商品  
マーケティング

### <関係者・企業等>

株式会社宿場JAPAN  
事業開発部 エリアマネージャー  
今津歩様(イマツアユム)